



工事タイムス

— 鐵道 —

關門隧道調査進捗 鐵道省の關門隧道建設調査は海底の地質並に状態、海流速度、船舶の通過量陸上の測量等の調査も目下順調に進捗して居り隧道の建設も此分なれば可能であると云ふ大體の見込みが立つたので愈々昭和五年度より六ヶ年繼續事業として二千萬圓の豫算を計上する方針の下に具體的設計の作製に取りかゝる事になつた。而してその路線は幡生より小瀬戸の埋立地に依り彦島に至り二千米の海底隧道に依り大瀬戸を横断、新町に上陸、小倉に至る五埋半を新設するものであるが、右工事中の主要なる部分海底隧道の新設方法にはシユールド式と沈埋式の二方法あるも先づ海底を掘つて茲に長さ八十米突、直徑十二米突餘の鐵管を海上より沈下し之を連結して隧道を建設する沈埋式が經費も少く又工事も容易なのでその設計は大體之に依つて作製する方針である。

東京附近の改良工事 鐵道省の東京附近の改良計画は目下實行中及び更に豫算約一億圓を以て明年度以降九ヶ年計画の繼續事業として續行することとなつてゐる、その主要工事の現況並に計畫内容は

一、品川鶴見間の貨物線増設（四年度完成）**一、鶴見程ヶ谷間の線路増設（四年度完成）****一、鶴見操車場工事**

第一期工事に屬する應急施設を四年度迄に完成せしめ使用開始の豫定

一、東京驛改良

東京上野間の汽車線は五年度初めに竣工する其後は近距離列車の始發驛は東京驛に變更する模様で

之に伴ひ品川驛に客車操車場を設置する、一方東京驛を改良して現在の裏側即ち八重洲橋の乗降場を増設するが四年度着手、六年度乃至七年度完成の豫定である。

一、飯田町中野間汽車線増設

飯田町信濃町間は目下工事中であるが今年度中に是完成の豫定、明年度は引續き中野驛の改良工事を行ひ同年度中に完了の豫定である。

一、國分寺八王子間複々線計畫

國分寺立川間を第一期工事、立川八王子間を第二期工事となし、第一期工事（電車線）は四年度完成第二期工事は五年度着手六年度完成の豫定。

一、東京田端間線路増設（四年度完成）**一、上野驛及秋葉原驛改良**

上野驛本屋は四年度着手秋葉原驛は目下工事何れも六年度初めに竣工の豫定

一、戸山ヶ原操車場設置

中央線の貨物列車を収容せんとするもので貨物驛を新設する筈である。

山陽線複線工事 は着々進捗し十一月九日から長府、幡生間（十哩一）の複線が開通することとなつた、なほ山陽線複線工事の未完成區間は岩國、柳井津間（廿五哩七七）岩田、虹ヶ濱間（九哩七五）三田尻、大道間（七哩八一）合計四十三哩三三で昭和五年度までには全部完成の計畫である。

地下鐵の問題 道路占用料は道路法第十八條により一坪當り十圓から廿圓の範囲において徵收し得る事になつてゐるが、現在徵收してゐるものは路面の占用のみで、道路の地下を占用するものに對しては徵收して居ない、しかるに近年都市のいちじるしい發達に伴ひ地下利用は益々增加する傾向なので、内務省土木局では道路の地下を占用するものに對し占用料を徵收する事が適法なりや否やにつき研究中であつたが

地上、地下にかゝらず道路を占用するものに對しては道路法第十八條の規定を適用すべきものである

といふ事に決定した。

— 建築 —

行幸藝沿道の諸工事點検 御大禮後十一月二十七日兩陛下京都から還幸啓相成リ二十九日には多摩陵へ、十二月十三日には上野竹の臺に催さ

れる市民奉祝大會に行幸啓あらせられるに就いて沿道保安の萬全を期する爲め警視廳建築課では御道筋兩側二丁以内の建造物及び目下工事中の個所を點検の結果十一月十日迄に四萬九千戸を調査し其内嚴重取締を必要と認むるものは腐朽、倒壊、陥落、發火その他危險状態にあるもの合計四百五十五件、工事中の昇降機、起重機、杭打機使用中のもの三百五十三件の中で改造を命ぜられたもの五十五件に及ぶ。尙ほ高層建築に對しては行幸前日及び當日一齊に検査を行つた。

○神奈川縣廳舍 新築工事は十一月一日落成式を舉行したが餘り工事を急いだ爲め内務部長室の天井が一部剥落して一寸騒がれた。

〔淺草本願寺〕は十月十八日復興發表式舉行、復再建 興計畫は敷地五千二百五十坪の南正面十一メートル道路の中心に大門を南及西に築地を繞らし、北及東をコンクリート高堀とし境内諸堂宇各社會事業機關はすべて鐵筋構造日本風建物として延建坪一千八百廿六坪である。本堂は間口廿四間奥行廿六間高さ廿間の壯大なもので建築委員に伊藤忠太、佐々木岩次郎、内藤多伸三氏が當りすべて鐵骨鐵筋の永久構造として地下室を設け様式は本山御影堂型の二層屋根として重層入母屋本瓦葺、内陣二手詰組二重折上格井で三方廣椽落椽を繞らし前面は三間の向拜を造る設計である。工費は本堂八十九萬圓、客殿、對面所、鐘樓、大廣間、大門其他百六十萬圓總計三百五十萬圓の豫算。

〔徳島縣廳舍〕工事は十月二十八日地鎮祭執行昭和五年六月完成の筈、設計は平面山字形三層の鐵筋コンクリート近世式ゴシック建築で正面は北方に面し市道を經て徳島港に臨む、外部はスクラツチ・タイル張りおよび人造石洗出仕上、内部は漆食およびプラスター塗上、床はコンクリート上木造床、屋根は陸屋根防水層を施す、但縣會議場の屋根は鐵骨造である、一般設備として電燈瓦斯、煤房、電氣時計、給排水、衛生、電話、リフト、消火、電鈴などの施設をする。

○名古屋 に帝國ホテル以上の大ホテルを造營する案を同市實業家連中研究中。

— 港 灣 —

○七尾港 は特別輸出港として改修される事になり三箇年繼續第一期工事に73萬5千圓を以て十月二十

八日起工した參列者は中川内務技監其他。

○鹿児島港 修築起工式は十一月三日同埋立地に舉行内務大臣代理其他片山下關土木出張所長、後藤知事以下五百名參列。

○敦賀港 修築工事のうち防波堤の海中十メートル延長工事が竣工したと、塙の川口右岸に突出する砂防堤三百八十メートルの中第一期工事の百九十メートルの基礎工事を終へたため昨今西北の風が吹き荒んでゐるが波浪はさへぎられ海上極めて静穏を示し裏日本唯一の良港の名を辱かしめないこととなつた。(十一初旬)

○龍塘浦 は第一期工事工費50萬圓を五ヶ年繼續工事として十月二十八日盛大な起工式を擧げた、同港は朝鮮黃海道在り仁川より75浬鎮南浦より175浬の位置に在り汐位干満最大差25尺である。

— 道路、下水 —

○若松市 の明治町道路鋪裝工事は八月十八日起工九月十九日竣工工費8,800圓、鋪裝路面延長124間、幅2.74間、總面積346坪、尙ほ照明燈百十一ヶを2,625圓にて装置し若松市の模範町となつた。

○東京市下水道 改良工事として大正十四年起工した芝浦第五號地のポンプ場は總面積5,660坪、工費125萬9千圓を以て今回竣工し十一月八日盛大な通水式を擧行した。

— 人 事 —

○井上範 東大教授工學博士の氏は雑誌港灣十一月號に「故廣井勇博士を悼みて」なる追悼記事を發表された。敬虔なる眞情溢るゝの文章は一瀆して襟を正さしむるものがある。

○吉田德次郎 九大教授の同博士は十月二十日日本ボルトランドセメント業技術會に於て混擬土の施工に関する研究の一部を發表された。

○鹿島精一 鹿島組として知られた工學博士の同氏は今回日本土木建築請負業者聯合會長に當選。

○横山信毅 大倉土木株式會社の專務たる同氏は今回衆望を負ふて日本土木建築請負業者聯合會副會長に當選。

○舛井照藏 神奈川縣技師の同氏は昨年六月出發歐米の工事視察を終へて本年歸朝十月二十四日土木學會第五十一回講演會に於て『歐米に於ける最近の水力電氣に就て』講演され當日出席會員一同に有益な

る工事寫真帳を配布された。

— 會 議 —

日本ポルトランドセメント業技術會の第十八回例會が十月十八日から三日間丸ノ内の鐵道協會に於て開催された。全國官民各方面の出席技術者百餘名に及び盛會であつた、次の講演があつた。

セメントの二三の物理的性質に就て

仙臺高工 内田泰郎

獨逸に於けるセメント回轉窯と自働堅窯との經濟比較 浅野セメント 藤井光藏
Rammarbeit と強度との關係

小野田セメント 岩間鑽一
純セメント抗張力試験の價値

秩父セメント 小柳勝造
鐵筋コンクリートの長期腐蝕試験

東京帝大 濱田稔
セメントコンクリート道路の耐久力試験經過

大阪市工業研究所 小山九市
骨材のコンクリートに及ぼす影響

鐵道省 大河戸宗治
混凝土施工に關する研究

九大 大吉田徳次郎
世界動力會議 東京部會 明年秋季を以て東京に開催せらるゝ萬國工業會議を機として日本動力協會主催の世界動力會議東京部會を昭和四年十月三十日より十一月七日に至る八日間開かれる事になつた。

世界動力會議加盟國は四十七ヶ國に及び世界の動力關係の技術家及び實業家を網羅するものであるから來秋の日本工學界は一時に萬象の花を見るの觀があらう。

日本動力協會は會長に古市男爵、副會長に加茂正雄博士が當り、其他有力なる實行委員の盡力と政府及び民間工業關係者の後援により準備着々進行中である。動力會議部會のプログラムは十月二十三日付を以て發表された。

港灣協會 が社團法人組織後の第一回通常總會は十月二日臺北市で開催され、會長水野鍊太郎氏議長として會員提出の議案を討議し、丹羽、鈴木兩博士の講演其他の催があつて盛會裡に閉會した。

○請負業者大會 日本土木建築請負業者聯合會第一

回總會は二十日神戸市の縣會議事堂で開催、全國各組合代表者二百五十名出席し會長大林義雄氏座長席につき議事に入り事務並に會計報告につき

一、鐵鋼並に木材關係の現狀維持を強請し徹底的にこれが實現を期するの件(東京、大阪兩土木建築業組合提出)

一、労働者扶助法案に代るべき國營業務災害保險法の制定方目的達成のため最善の努力を拂ふの件(東京、大阪、京都、神戸の四組合提出)

を附議し、いづれも満場一致可決、委員をあげて實行を一任することに決定し正副會長に鹿島精一(東京)副會長に横山信毅(東京)の兩氏それぞれ當選した、なほ次回は東京市において開催することに決定した。

— 紹 介 —

土木日記

鐵道時報局の昭和四年版

毎年晚秋の頃から各方面の出版者は日記帳の宣傳に汗を流すのであるが、鐵道時報局の此のポケツトディイリーは其等の市場品に一頭地を抜いた重寶なものである。今年は記入欄と便覽とを表紙の中で別冊にしたものと思付である。上製金一圓二十錢、送料十四錢(神田區鍋町アーチ下鐵道時報局發行)

雑誌索引 第二卷

秋田市の人、下戸前繁松氏の編纂及び出版である有ゆる雑誌の記事索引表である。個人的事業としては篤志な行爲と云はねばならぬ、四六倍判20枚定價67錢ではあるが各圖書館及び讀書家は會員となつて良いものである(發行所は秋田市橋山南新町下戸前方)

下記へ轉居仕り候

東京市外長崎町三六二九
(武藏野線長崎驛ヨリ北へ三丁)

十一月二十五日

岡崎保吉